

研究 だより

vol.5

未来の京都創造研究事業は、
「大学のまち京都」の『知』の集積を、京都の未来にとって
よいことに活かそうという思いから始まった事業で、
大学の研究者と京都市の担当部署との協力により、
未来の京都づくりに向けた政策を創造するための
調査・研究を行っていただいています。

今回の研究だよりでは、3月17日(火)に開催し
ました「成果報告会・交流会」の様子をお伝えします。

成果報告会

2015年3月17日(火) 17時～20時10分 キャンパスプラザ京都
今年度採択された6つの調査・研究の成果報告が行われました。

研究代表者と研究テーマ(当日の報告順)

- ①石原 一彦(立命館大学政策科学部 教授)
「外国人留学生の大学卒業後の就業に関する動向の分析と自治体、
企業及び大学における支援方策に関する研究」
- ②政木 哲也(京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 博士後期課程)
「京都市郊外の市営住宅とその周辺住宅地における空間構成と変遷について」
- ③柴田 昌三(京都大学大学院地球環境学堂 教授)
「京都市内における住宅庭の環境およびその減少が街区の生物相に与える影響」
※当日は新野彬子さん(京都大学大学院農学研究科 博士前期課程)が報告されました。
- ④杉岡 秀紀(京都府立大学公共政策学部 講師)
「京都市における『フューチャーセンター』を活用した次世代型市民協働政策についての研究」
- ⑤佐伯 彰洋(同志社大学法学部 教授)
「マイナンバー制度の導入に伴う個人情報の保護、管理、利用及び活用のあり方に関する研究」
- ⑥西村 雅信(京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 准教授)
「交流の場づくりによる商いに関わる未来の関係者ネットワーク形成実験」
※当日は谷口知弘 同志社大学客員教授とともに報告されました。



成果報告会には、研究者、市民、京都市職員など約90名が参加されました。お忙しい年度末の平日の夜にもかかわらずご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。



2014年度の調査・研究は、外国人留学生の卒業後の就業から都心部の商いに関わる交流の場づくりまで、実に多岐にわたるテーマとなりました。各研究グループのみなさまは実質9か月という短い調査・研究期間にもかかわらず、たいへん精力的に取り組まれました。

アンケートやヒアリング調査、現地調査、ワークショップなどから得られた生の声を丹念に分析するとともに、京都市の担当部署からの情報提供、実務担当ならではの助言や提案なども取り入れつつ獲得した、学術的かつ実践的な成果を報告されました。

成果報告会では1グループ25分程度という限られた時間での報告だったため、初めてお聞きいただく方にとっては理解が難しい部分があったかもしれません。

最終的な調査・研究の成果を取りまとめた報告書を4月以降に発行する予定です。関心を持っていただいた調査・研究の詳細について、ご覧いただけると幸いです。

大学コンソーシアム京都のホームページでも公開いたします。



交流会

2015年3月17日(火) 20時20分～21時10分

キャンパスプラザ京都

成果報告の内容を受け、調査・研究テーマごとテーブルに分かれて、自由に意見交換を行いました。

研究代表者を取り囲むかたちで、成果報告の内容に対する参加者の感想や、研究グループが説明を尽くせなかったことの補足などを自由に述べていただきました。研究グループのメンバー、大学の研究者、市民、京都市職員など約60名が参加され、各テーブルではざっくばらんな語り合いが盛り上がりました。

この交流会の目的は、普段は関わるような人たちと語り合っていただくことによって、研究者のみみなさまには今後の研究に、参加者のみなさまには今後のお仕事や学問、地域での活動などに何らかの形で活かしていただくことです。したがって、ここで語り合われたことから結論を出したり共通の認識を得るということは行いませんでした。立場や専門分野が違う方からの視点・意見は自らの「気づき」になりますし、ネットワークづくりのきっかけにもなります。

今回の成果報告会・交流会で、参加されたみなさまに気づきや刺激が生まれていましたら幸いです。「未来の京都創造研究事業」は、「未来の京都に種をまく」ことを目的としています。この場をきっかけに生まれた芽が、いつか葉をつけ、花を咲かせることとなりましたら、事務局としては望外の喜びです。

「未来の京都創造研究事業」は、来年度も引き続き実施します。調査・研究の成果がより京都市政に、地域のために活かされるものとなるよう努めますので、引き続きよろしく願いいたします。



編集後記

1年経ってしまいました。時が経つのは本当に早いものです。

これから、すべての研究グループの皆さんと京都市役所内の各部署の職員の皆さんの参加・協力により実施して進めてきたことを、きちんと終わられるよう、さらに連携しつつ作業を進めます。

私はプロジェクト・マネージャーを担当させていただいておりますが、実はもう一つの顔もあって、防災・減災計画の研究も密かにおこなっています。リスク・マネジメントの心得は「悲観的に備えて、楽観的に事に当たれ」です。

成果報告会と交流会は準備が大変だったのは事実ですが、終わってしまえば、参加者のアンケート回答には「良かった」の声が多くてホッとしました。

が、安心する間もなく新年度へ。新たな研究者と担当部署とともに5年目の歩みを進めていきます。(水田)

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 シンクタンク事業担当 水田、矢野

E-mail mirainokyoto@consortium.or.jp 電話 075-708-5803

URL <http://www.consortium.or.jp/project/seisaku/think-tank>

